

平成13年4月26日

東京都病害虫防除所

平成13年度病害虫発生予察注意報 第1号

病害虫名：チャバネアオカメムシおよびクサギカメムシ

作物名：ナシおよびリンゴ幼果

上記、果樹カメムシ類の越冬成虫の活動は平年よりもやや早く、チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数は多い。他方、クサギカメムシ成虫はあちこちで目撃され、家屋内外やベランダの干し布団に飛来するため、本種の防除について問い合わせが多い。このためナシ園やリンゴ園へ飛来して、その幼果を吸汁加害することが懸念される。

1. 注意報の内容

- (1) 発生地域：都内全域
- (2) 発生量：多い
- (3) 発生時期：やや早い

2. 注意報発令の根拠

- (1) チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺開始は、通常4月第4半旬から第6半旬に始まるが本年は第3半旬に始まった。
- (2) 1998年以来、本年の誘殺数は最も多い。

4月第5半旬 までの誘殺数 (1トラップあたり)	1998年	1999年	2000年	本年
	8.5	2.0	0	14.0

- (3) 気象予報によれば気温は平年並だが降水量は平年並～少と予想され、果樹園への飛来は活発になる。

3. 防除上の注意事項

- (1) 成虫は、ウメ、ナシ、リンゴなど果樹の幼果、クワやサクラの実などを吸汁する。吸汁された果樹の幼果は生長するにつれて大きく変形する。
- (2) 6月下旬頃から新成虫が羽化して秋まで果樹や果菜類・豆類などを吸汁加害する。
- (3) 幼果のうち、有袋栽培の効果が高い。
- (4) 果樹園への飛来が認められたら防除基準を参照（ナシ；P 279, リンゴ；P 294）して薬剤を散布する。
- (5) 合成ピレスロイド剤は天敵類に対する影響が大きいうえ、ハダニ類の発生を助長するのでなるべく使用を控える。
- (6) 農薬の散布時刻は果樹園への飛来が多い夕刻、または活動の鈍い早朝に行うのが良い。